

都市再生整備計画 事後評価シート  
成田ニュータウン地区

平成31年4月

千葉県成田市

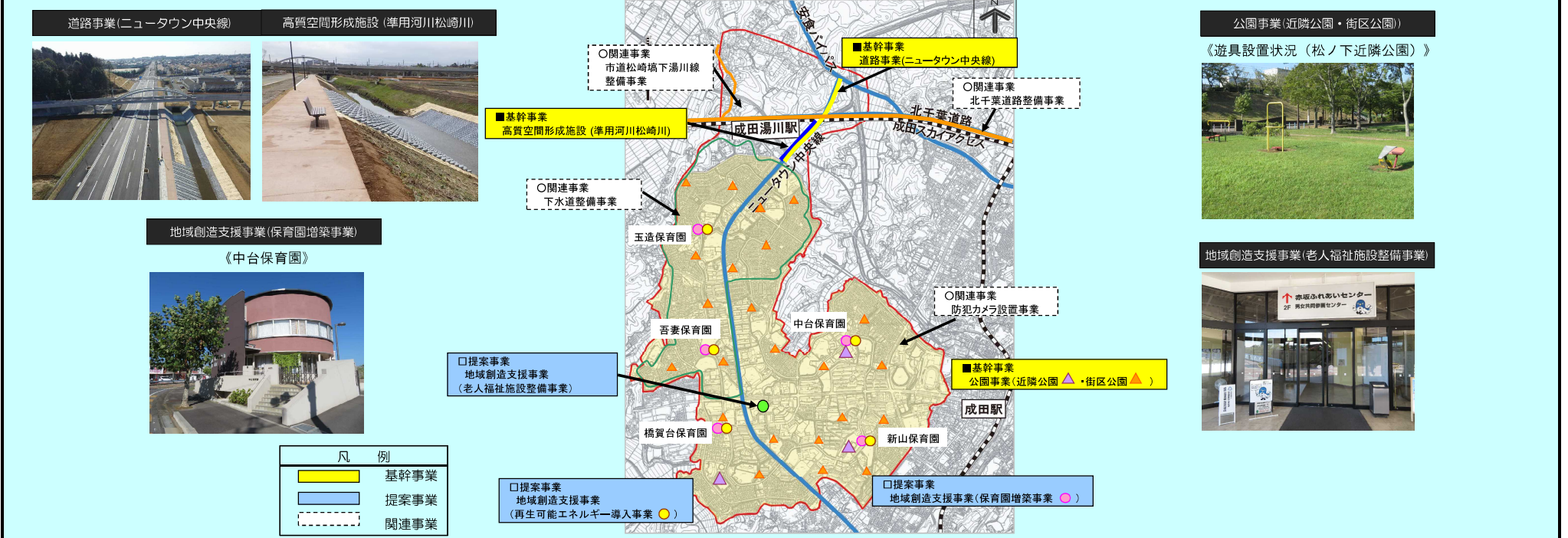
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	成田市		地区名	成田ニュータウン地区			面積	573.0ha					
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	4,437.0百万	国費率	0.4							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路事業：ニュータウン中央線整備事業</li> <li>・公園事業：近隣公園・街区公園整備事業</li> <li>・高質空間形成施設：準用河川松崎川整備事業</li> </ul>													
		提案事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域創造支援事業：再生可能エネルギー導入事業</li> <li>・地域創造支援事業：保育園増築事業</li> <li>・地域創造支援事業：老人福祉施設整備事業</li> </ul>													
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-		-		-			-						
		提案事業	下水道整備事業		-		関連事業への移行による事業の削除。			影響なし						
	新たに追加した事業	基幹事業	-		-		-			-						
		提案事業	-		-		-			-						
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-										
	変更	-		-		-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	地区南北間のアクセス時間	(分)	11	H24	7	H29	モニタリング	評価値	7	○	あり -	ニュータウン中央線の整備により、成田ニュータウン地区を縦断する、最短ルートが形成され、アクセス時間の短縮が図られた。	-		
	指標2	地域への愛着に対する満足度	(%)	34.5	H24	50.0	H29	モニタリング	評価値	47.7	△	あり -	道路や公園、保育園等の都市基盤施設の充実により地区全体の魅力向上が図られた結果、地域への愛着に対する満足度が上昇した。	-		
	指標3	地区内居住人口	(人)	33,835	H23	33,835	H29	モニタリング	評価値	32,824	×	あり -	公園のバリアフリー化や既存保育園の増築、老人福祉施設の整備を行うなど都市基盤施設の整備を進めたことで、地区全体の魅力向上が図られ、地区内居住人口減少の抑制に一定の効果があった。	-		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の達成見込み		効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1							モニタリング	評価値							
4)定性的な効果発現状況																
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況											今後の対応方針等	
	モニタリング	なし		<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生整備計画に記載し、実施できた</li> <li>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した</li> <li>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</li> </ul>											-	
	住民参加プロセス	なし		<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生整備計画に記載し、実施できた</li> <li>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した</li> <li>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</li> </ul>											-	
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生整備計画に記載し、実施できた</li> <li>都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した</li> <li>都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった</li> </ul>											-	

## 様式2-2 地区の概要

### 成田ニュータウン地区 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標：成田市の新たな顔となる持続可能なまちづくり（～サスティナブルシティ・成田～） ○目標①：広域交通ネットワークの形成による交通利便性の向上を図る。 ○目標②：都市施設の整備により新たな魅力を創出する。 ○目標③：三世代交流を実践する安全・安心に過ごせる住環境を醸成する。	地区南北間のアクセス時間	11	H24	7	H29	7	H30
	地域への愛着に対する満足度	34.5	H24	50.0	H29	47.7	H30
	地区内居住人口	33,835	H23	33,835	H29	32,824	H30



**まちの課題の変化**

- 北千葉道路のランプを受け止めるための道路整備などにより、新たな都市のエントランスとして成田湯川駅を中心とした交通ネットワークの充実が必要である。
  - ・ニュータウン中央線の整備により、成田ニュータウン地区における南北間のアクセス性が向上した。
  - ・また、ニュータウン中央線と国道464号北千葉道路の接続により、新たな交通ネットワークの形成が図られた。
  - ・ニュータウン中央線の整備により、地域間を連絡する軸が整備されたため、今後はそれに伴う公共交通機能の充実を図る必要がある。
- 成田ニュータウンの良好な住環境を維持・拡充するため、地区施設の老朽化やバリアフリー化への対応を進めるとともに、新たな魅力・付加価値の創出等、まち全体の見直しが必要である。
  - ・準用河川松崎川の堤防とニュータウン中央線の歩道の一体的な整備により、安全・快適な歩行空間が形成された。
  - ・公園における老朽化した遊具の更新や多目的トイレ設置などのバリアフリー化により、幅広い世代の交流の場が創出された。
  - ・保育園に太陽光パネルが設置され、環境に配慮したまちとして新たな魅力が創出された。
  - ・地区内人口は減少傾向にあり、人口の流出を抑制するため、今後とも地区全体の新たな魅力創出に努める必要がある。
- 高齢化や人口減少の時代に対応したまちづくりとして、防犯・防災対策、子育てしやすい環境の整備等、誰もが安全・快適に暮らせるまちづくりが必要である。
  - ・老人福祉施設の整備により、高齢化に対応した住環境の形成が進められた。
  - ・既存保育園の増築により、子育てしやすい住環境の形成が進められた。
  - ・防犯カメラの設置により、住環境の安全性の向上が図られた。

**今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)**

- ・人口の流出を抑制するため、公共施設の移設や統廃合による空地进行の有効活用し、都市機能の充実を図る。
- ・住環境の向上を図るため、老朽化が進む住宅地の建て替えやバリアフリー化等に向けた検討を行う。
- ・幅広い世代の交流の場を創出するため、引き続き各公園における老朽化した遊具の更新を行い、整備済みの公園施設についても適切な維持管理に努める。
- ・魅力ある住環境を整備するため、生涯学習支援施設や総合的な子育て支援施設など、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる多機能的な複合施設を整備する。
- ・自転車通行帯の整備を進め、歩行者と自転車の両者が安心して利用できる通行空間の整備を推進し、地区内の安全性・快適性の向上を図る。